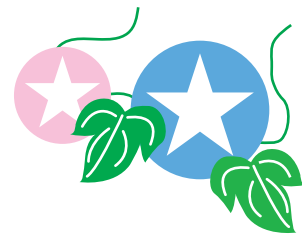


あさがお 栽培のポイント

Q & A



1.あさがおが、なかなか発芽しない

- 温度が低い場合。水やりを忘れた場合。また、水はけのよくない土にまいたり、種を深く埋めすぎると、種や根を腐らせることがあります。
- あさがおの発芽適温は20℃です。20℃以上を保つようにしましょう。夜、冷え込む時は、鉢を室内に入れましょう。
- 種をまく時期は、全国平均では5月の連休明けから5月末頃がよいとされていますが、寒冷地にお住いの場合は遅霜の心配が無くなってから(5月下旬から6月中旬頃)にしてください。



2.あさがおの葉が小さく、弱々しくて、大きくならない。

(本葉が小さくて、茎も細く、葉の色が赤茶色になってくる)

- 土に養分が足りていない「肥料切れ」が起こっていることが考えられます。すぐに追肥を行いましょう。また、通常よりも薄めた液体肥料(1000倍～2000倍に薄める)を毎日の水の代わりに、1～2週間与え続けましょう。 **※液体肥料は必ず通常よりも薄めてください。**
(しばらくしても効果が見られない場合は、苗の植え替え、又は再度種をまく必要があります。)



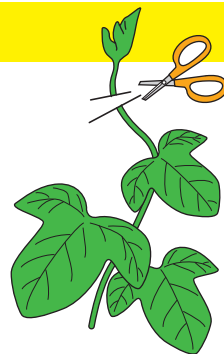
3.あさがおのつるが十分に伸びない頃に、つぼみができ、小さな花が咲いてしまいました。(本葉が小さくつやがない、つぼみも花も小さくつやがない)

- 上記と同じ土に養分が足りていない「肥料切れ」が起こっていることが考えられます。ついた つぼみはつみとり、すぐに追肥を行いましょう。また、通常よりも薄めた液体肥料(1000倍～2000倍に薄める)を毎日の水の代わりに、1～2週間与え続けましょう。
※液体肥料は必ず通常よりも薄めてください。
※つぼみはつるが伸びてきたら、またついていきます。
(しばらくしても効果が見られない場合は、苗の植え替え、又は再度種をまく必要があります。)



4.葉やつるはよく成長しているのに、つぼみが付かない。

- 窒素肥料を与えすぎると、葉やつるだけが成長して、つぼみや花が付きにくいことがあります。つるの先端を切ってみて、つぼみを付ける成長への刺激を与えましょう。
- 水を与え過ぎているようであれば、しばらく水の量を少なくしてみましょう。
- また、夜間の街灯や部屋の明かりが影響している場合は短日にならず、つぼみが付きにくくなります。夜間照明が当たらない場所へ移動しましょう。



5.採取した種について

- 花が咲き終わり、採取した種は、翌年そのままの状態だと発芽処理をしていないので芽が出にくいです。下処理が必要になるので注意しましょう。保存方法にも注意しましょう。